

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
期末配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
株主名簿管理人	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
未払配当金の支払い、 支払明細発行のお問い合わせ先・郵便物送付先 ^{※1}	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-232-711 (通話料無料)
特別口座管理機関	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
特別口座に記録された株式に 関する各種お手続きのお問い合わせ先・郵便物送付先 ^{※2}	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-288-324 (通話料無料)
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。
公告掲載アドレス	http://www.pronexus.co.jp/koukoku/6724/6724.html

※1 住所氏名変更・配当金振込先指定(変更)等の事務手続きについては、お取引の証券会社等にお問い合わせの上、所定の変更届等を提出してください。

※2 特別口座にて管理されている単元未満株式(100株未満)の買取りの際には、買取請求書を上記「みずほ信託銀行株式会社 証券代行部」にご請求の上、同行にて所定の手続きを行ってください。

セイコーエプソン株式会社

2017年3月期 中間株主通信

2016年4月1日～2016年9月30日



CONTENTS

プリンターに新しい選択肢を。
あなたらしい選び方を。 P.5

特集 新商品のご紹介



レーザー光源ユニット搭載高光束プロジェクターで
感動の映像体験と
快適なビジュアルコミュニケーションを。 P.7

環境
活動

日経地球環境技術賞 受賞
プリントヘッド輸出の変革による
環境負荷低減 P.8



セイコーエプソン株式会社

〒392-8502 長野県諏訪市大和3-3-5
TEL: 0266-52-3131 (代表)

<http://www.epson.jp>



この冊子は、FSC® 認証紙と、環境にやさしい植物油インキを使用して印刷しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

経営理念・連結財務ハイライト	P.1
株主のみなさまへ	P.2
当上期の連結業績について	P.3

連結決算の概要	P.9
会社情報/株式情報	P.10
株主メモ	裏表紙

連結財務ハイライト

経営理念

お客様を大切に、地球を友に、
個性を尊重し、総合力を発揮して
世界の人々に信頼され、社会とともに発展する
開かれた会社でありたい。
そして社員が自信を持ち、
常に創造し挑戦していることを誇りとする。

EXCEED YOUR VISION

私たちエプソン社員は、
常に自らの常識やビジョンを超えて挑戦し、
お客様に驚きや感動をもたらす
成果を生み出します。

EPSON
EXCEED YOUR VISION

売上収益



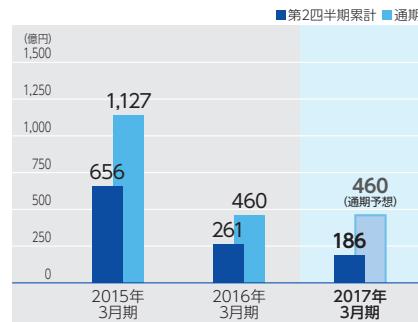
事業利益



営業利益



当期(四半期)利益



資産合計



親会社の所有者に帰属する持分 親会社所有者帰属持分比率



(注) 1. 2014年3月期に係る連結財務諸表から、国際会計基準(IFRS)を任意適用しています(移行日:2012年4月1日)。
2. 2017年3月期通期の売上収益および各利益は、2016年10月27日公表の予想金額です。
3. 事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しており、日本基準の営業利益とほぼ同じ概念です。

本文中、セイコーエプソン株式会社につきましては「当社」、エプソングループ(当社および当社の関係会社)については「エプソン」と記載しています。

株主のみなさまへ

株主のみなさまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。2017年3月期中間株主通信をお届けするにあたり、謹んでごあいさつ申し上げます。

上期(2016年4月～9月)の振り返り

エプソンは、本年3月に2016年度から2025年度の10年間において目指す姿を示した長期ビジョン「Epson 25」と、この実現に向けた3か年の中期経営計画である「Epson 25 第1期中期経営計画」を制定いたしました。

第1期中期経営計画では、これまで実行してきた戦略をベースに、「転換と開拓」の成果を継続させることと同時に、Epson 25の実現に向けた戦略に基づき、商品開発の仕込みや必要な投資を積極的に行い、強固な基盤を整備していくことを方針として掲げています。

本上期においては、この方針に沿って将来成長を実現する取り組みを進めたことにより、インクジェットプリンターでは、市場が軟調に推移するなか、引き続き大容量インクタンクモデルが業績を牽引したほか、成長分野であるサイネージ(屋内外装飾やポスターなどの印刷)やテキスタイル(捺染印刷)などの大判プリンターの販売も拡大しました。また、プロジェクターでは、市場が低迷するにもかかわらず、着実に販売数量が増加するとともに、レーザー光源を搭載した高光束プロジェクターの販売を開始し(詳細については、後掲「特集ページ」をご参照ください)、ロボットでは、より小型化と装置の設置占有面積の削減を実現した新小型6軸ロボットを発売しました。

さらに、オフィス向けに早期の商品化を計画しているラインヘッド搭載プリンターや、「オフィス製紙機(PaperLab)」の開発も順調に進めることができました。

このような状況のもと、エプソンを取り巻く経営環境は厳しさを増しており、とりわけ、大幅な円高進行がエプソンの業績

にも大きな影響を及ぼす結果となりました。

以上により、上期業績につきましては、売上収益は4,875億円(前年同期比554億円減(うち為替影響:△657億円))、事業利益は257億円(同145億円減(うち為替影響:△155億円))となりましたが、これらの為替影響を除くと、実質的には前年同期に対し増収増益であり、また、四半期利益は186億円(同75億円減)となりました。

株主のみなさまへの利益還元

当期の中間配当につきましては、Epson 25の実現に向けた取り組みが計画に沿って進捗していることなどを踏まえ、従来予想通り1株当たり30円とさせていただきます。

なお、第1期中期経営計画における株主還元の基本方針に基づき、株主のみなさまへの利益還元の一環として、本年5月から6月にかけて約100億円の自己株式取得を実施しました。

下期においても、円高傾向が継続するなど、エプソンを取り巻く経営環境には予断を許さない状況が続く見込みですが、戦略の方向性を堅持しつつ、環境変化にも適切に対応し、今後の持続的な成長に向けた取り組みと通期業績予想の達成に取り組んでまいります。

株主のみなさまの一層のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

2016年11月

代表取締役社長

碓井 稔



売上収益：4,875 億円 (前年同期比 10.2%減)

事業利益：257 億円 (前年同期比 36.1%減)

事業セグメント別の概況および業績の主な変動要因

(注) セグメント利益(事業利益)は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しています。

プリンティングソリューションズ事業セグメント

売上収益 3,186 億円 (前年同期比 10.7%減)

セグメント利益 339 億円 (前年同期比 22.9%減)



売上収益

■ 第2四半期累計 ■ 通期 (単位:億円)



セグメント利益

■ 第2四半期累計 ■ 通期 (単位:億円)



■ プリンター事業

インクジェットプリンター、シリアルインパクトドットマトリクスプリンター (SIDM)、ページプリンター、カラーイメージスキャナーおよびこれらの消耗品など

■ プロフェッショナルプリンティング事業

大判インクジェットプリンター、産業用インクジェット印刷機、POSシステム関連製品、ラベルプリンターおよびこれらの消耗品など

■ その他

PCなど

主な商品



カラリオ・プリンター
[EP-879AW]



ハガキプリンター
[PF-81-2017]



大容量インクタンクプリンター
[EP-M570T]



ビジネスインクジェットプリンター
[PX-M860F]



大判インクジェットプリンター
SureColor [SC-S80650]



レシートプリンター
[TM-m30]

プリンター事業

- インクジェットプリンターは、大容量インクタンクモデルが他社参入による市場認知度向上効果もあり、大幅に販売数量が増加したことで売上の拡大が継続。一方、インクカートリッジモデルが市場規模縮小の中で販売数量は前年同期並みを維持したが、平均販売単価下落および為替影響により減収となり、全体では売上減少。また、消耗品は、販売数量が減少したものの、単価の高いオフィス向け消耗品の比率が高まり、商品構成の改善が進んでいるが、為替による減収影響により売上減少。
- ページプリンターは、高付加価値製品中心へ販売を絞り込んだことにより数量減少となった結果、売上減少。
- SIDMは、中国の徴税市場での特需が継続したものの、為替による減収影響により売上減少。

プロフェッショナルプリンティング事業

- 大判インクジェットプリンターは、成長市場であるサインージ分野では新製品が好調だったことに加え、テキスタイル分野でも経済不振の影響を受けたものの堅調に推移し売上が拡大したが、既存市場であるフォト・グラフィックス分野でのプロ・ハイアマチュア向けフォトプリンターは競合他社による価格攻勢の影響により売上減少となり、全体では為替による減収影響もあり売上減少。また、消耗品についても、本体の販売数量減少、為替による減収影響により売上減少。
- POSシステム関連製品は、欧州で低価格モデルが堅調に推移したものの、前年同期のような日本・北米での大型案件が発生しなかったことによる数量減少、為替による減収影響により売上減少。

3～4ページに掲載している ● 売上収益構成比は、2016年4月～9月のセグメント別収益を含めて算出しています。
● 2017年3月期通期の売上収益およびセグメント利益は、2016年10月27日公表の予想金額です。

ビジュアルコミュニケーション事業セグメント

売上収益 **877**億円 (前年同期比7.8%減)
セグメント利益 **71**億円 (前年同期比18.8%減)

売上収益
構成比
18.0%

■ ビジュアルコミュニケーション事業

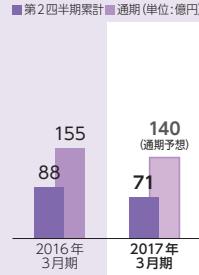
液晶プロジェクター、液晶プロジェクター用高温ポリシリコンTFT液晶パネル、スマートアイウェアなど

- 液晶プロジェクターは、欧州での教育市場や北米・南米での市場低迷が継続する中、エプソンの販売は欧州での大型スポーツイベントにともなう普及価格帯モデルの増加、アジア地域での拡販、高光束分野での新製品販売開始などにより、前年同期を上回る販売数量となったが、為替による減収影響により、全体では売上減少。

売上収益



セグメント利益



主な商品



ウェアラブル・産業プロダクツ事業セグメント

売上収益 **810**億円 (前年同期比11.4%減)
セグメント利益 **39**億円 (前年同期比55.6%減)

売上収益
構成比
16.6%

■ ウェアラブル機器事業

- 時計 (ウォッチ、ウォッチムーブメントなど) ● センシング機器

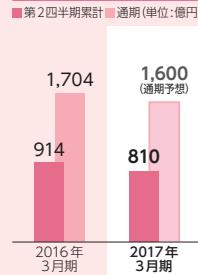
■ ロボティクスソリューションズ事業

- 産業用ロボット、ICハンドラーなど

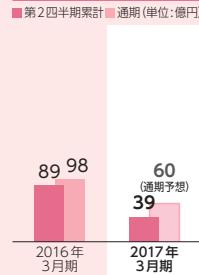
■ マイクロデバイス事業他

- 水晶デバイス (水晶振動子、水晶発振器、水晶センサーなど)
- 半導体 (CMOS LSI など) ● 金属粉末 ● 表面処理加工

売上収益



セグメント利益



主な商品



ウェアラブル機器事業

- ウォッチで国内市場向けにおいて新製品を発売したことによる平均販売単価上昇効果があったが、インバウンド需要の減速および海外市場向けの低調な推移により数量が減少となったことに加え、ウォッチムーブメントでの市況悪化の影響、為替による減収影響により、全体では売上減少。

ロボティクスソリューションズ事業

- 産業用ロボットは、中国を中心としたロボット需要を取り込み売上増加となったが、ICハンドラーがスマートフォン向け平均販売単価下落の影響により売上減少となったことに加え、為替による減収影響により、全体では売上減少。

マイクロデバイス事業他

- 水晶デバイスは、携帯電話などのパーソナル機器向けの数量減、為替による減収影響により売上減少。
- 半導体は、ファブドリー需要の増加により販売数量が増加となったが、車載用大口顧客向けの数量減少、為替による減収影響などにより売上減少。
- 表面処理加工は新規顧客開拓の進展があり、また金属粉末はモバイル機器向け高性能材料粉末が堅調に推移したが、為替の減収影響により売上減少。



その他

売上収益 **6**億円 (前年同期比4.9%増)
セグメント利益 **△2**億円 (前年同期は3億円のセグメント損失)

売上収益
構成比
0.1%

- グループ向けサービス業など

プリンターに新しい選択肢

2016年秋、ご家庭向けインクジェットプリンターに個性豊かな新商品が追加されました。よりコンパクトになったカラリオ・プリンター、写真高画質モデルカラリオ V-edition、エコタンク搭載モデルなど、お客様の用途に応じてお選びいただける幅広いラインアップをご用意しました。

Colorio

EP-879Aシリーズ

どこにでも置きたくなるデザインとコンパクトボディに
家族みんなで使っていただける機能を凝縮



コンパクトに凝縮された多機能

家族みんなが簡単に使えるように、コンパクトボディに機能を凝縮。用紙は前面2段トレイ+背面給紙に対応した便利な3Way給紙。さらに分かりやすい表示で迷わず操作できる「直感タッチパネル」を搭載しています。



洗練されたデザインで、ぐっとコンパクトに

エプソンの小型化技術により、カラリオ複合機史上最小のコンパクトサイズを実現。やわらかな曲面で包み込んだデザインで、どの場所に置いても、どの角度から見てもスッキリ見えるデザインで、お部屋の雰囲気をさらにお洒落に引き立てます。



360° Design

写真も、文字も、より美しく

新開発の6色染料インク搭載で、緑の色域が拡大。風景写真などがさらにキレイに、鮮やかな色再現が可能になりました。コピーの画質もさらに向上し、地図などの色つき細線やつぶれがちな小さな文字もくっきり見やすくなりました。



コピーがくっきりキレイ

2015年 発売
EP-808Aシリーズ

2016年 発売
EP-879Aシリーズ

印刷可能枚数
となど、各種
アソナダイレ

印刷可能枚数
となど、各種
アソナダイレ

* 画像は効果を再現したイメージです。

を。あなたらしい選び方を。

Colorio
V-edition

EP-30VA

高画質写真を低ランニングコストで気兼ねなく印刷。PCレスで思い通りの作品印刷



Epson ClearChrome
K2 INK



作品づくりが楽しめる高画質

「Epson ClearChrome K2インク」は、シアン、マゼンタ、イエロー、ブラックに、レッドとグレーを追加して、高い色再現性を実現。風景写真だけでなく、幅広い作品でより自然で鮮やかな表現を可能にします。さらに、暗部はフォトブラック、ハイライトはライトグレーで印刷。2つのブラックインクで、グレースケールの豊かな階調表現を実現します。

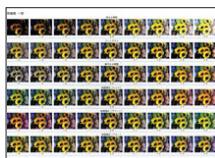
コストを気にせず、写真をたくさんプリントできる

インクと用紙の合計で、1枚当たり約12.7円*という嬉しいコストを実現。こだわりの作品づくりにも、コストを気にせずどんどんチャレンジできます。

* 印刷コスト算出方法は、JEITA(社団法人電子情報技術産業協会)作成・発行の「家庭用LJプリンタの印刷コスト表示に関するガイドライン」に準拠

パソコンを使わずに、高画質にこだわられる

写真を引き立てる余黒・余白の設定もカンタン。色確認印刷で印刷結果を見ながらコントラスト、色調の補正など、作品づくりをサポートします。



エコタンク搭載モデル EP-M570T

大容量インクタンク(エコタンク)搭載でコスト・インク交換の手間を気にせず気兼ねなく大量印刷



インクたっぷり2年分*



本体に同梱のインクで、カラー約14,000ページを印刷可能。同梱インクを使い終わった後もコストを気にせず印刷していただけます。

インクボトルを追加購入した場合

A4 カラー		A4 モノクロ	
1枚当たり印刷コスト	印刷可能枚数	1枚当たり印刷コスト	印刷可能枚数
約0.6円	約7,500ページ	約0.3円	約4,500ページ

* A4カラー文書をひと月当たり300ページプリントした場合を想定して算出

ボトル注入式でインク充填もラクラク

充填用インクはボトルからインクタンクに注入するだけ。面倒な交換作業は必要ありません。



レーザー光源ユニット搭載高光束プロジェクターで感動の映像体験と快適なビジュアルコミュニケーションを。

エプソンが初めて液晶プロジェクターを商品化したのが1989年。以来、常に業界をリードし続けて、2001年から15年連続世界シェアNo.1を達成^{※1}。2016年には、レーザー光源ユニットを搭載した、高い表示性能をもった新商品が加わりました。

これからも、ビジネスと生活のあらゆる場面にプロジェクターならではの感動の映像体験と快適なビジュアルコミュニケーションを創造し続けてまいります。



高光束プロジェクターが実現するお客様価値

新開発のレーザー光源ユニットを搭載した新商品、EB-L25000Uは25,000ルーメンもの高光束を実現し、これまでにない明るさと鮮やかな映像の投写が可能になりました。

これにより、大画面・表現の多彩さといったプロジェクターならではのお客様価値を、イベントやデジタルサイネージなどのエプソンにとって新たな分野のお客様にもご提供できるようになりました。

表示性能と信頼性の両立

イベント会場など過酷な環境で使用される高光束プロジェクターには、表示性能やさまざまな機能はもちろんのこと安全性や堅牢性・ランプ寿命などの信頼性も高いレベルで求められます。

EB-L25000Uは、さまざまな課題をひとつひとつ解決したことで、3年/20,000時間の保証^{※2}を可能にしました。



パブリックビューイング



イベント



プロジェクションマッピング

※1 500ルーメン以上のプロジェクター数量シェアにおいて(2001~2015年 Futuresource Consulting Limited調べ) ※2 3年または20,000時間の早い方となります。詳細情報はエプソンホームページをご覧ください。 ※3 発売済みの3LCDプロジェクター製品において。エプソン調べ。(2016年3月現在)

日経地球環境技術賞 受賞

エプソンは、このたび、ドライファイバーテクノロジー（乾式紙再生技術）の開発により、日本経済新聞社が選定する「2016年日経地球環境技術賞」を受賞しました。

この技術を活用し、世界で初めて※1、使用済みの紙※2を原料として、文書情報を完全に抹消したうえで、新しい紙を生産できる乾式オフィス製紙機「PaperLab（ペーパーラボ）」を開発、今後商品化※3してまいります。

※1 2015年11月時点、「乾式のオフィス製紙機の開発」において世界初(当社調べ) ※2 一般コピー用紙(A4, A3)を原料として使用できます。 ※3 2016年内の商品化予定です。



PaperLab（ペーパーラボ）※イメージ

プリントヘッド輸出の変革による環境負荷低減

日本をはじめ世界各地に製造・販売拠点を持つエプソンにとって、「エコ輸送」は環境負荷低減のために重要なキーワードになっています。

今回は、その取り組みのなかで大きな成果をあげた、プリンターの重要なコア部品であるプリントヘッドの輸出方法の改善事例をご紹介します。



PrecisionCore
マイクロTFPプリントヘッド



プリントの速度や画質などを向上させ、オフィスから商業・産業までさまざまな分野で活用できる先端のインクジェットプリントヘッド「PrecisionCore（プレジジョンコア）」は、当社諏訪南事業所（長野県諏訪郡富士見町）、東北エプソン株式会社（山形県酒田市、以下東北エプソン）、秋田エプソン株式会社（秋田県湯沢市）の3拠点で生産され、完成したプリントヘッドは東北エプソンに集約された後、インドネシアのプリンター組立工場に輸送されています。

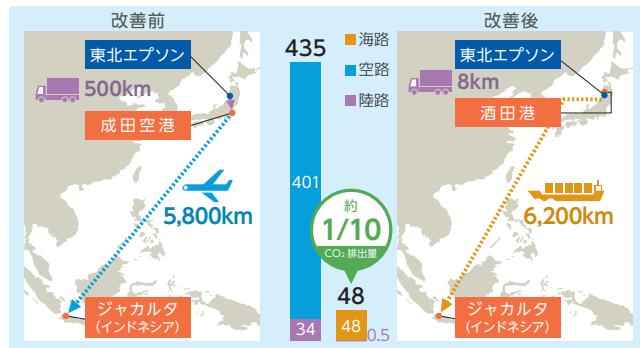
PrecisionCoreプリントヘッドが量産化された当初は、品質向上が図られたプリントヘッドを組み込んだプリンターを

いち早くお客様に届けたいという思いに加え、海上輸送による長時間の高温多湿の影響を避けるために、航空輸送によりインドネシアに輸送されていました。

しかし、航空輸送は最短な手法でありながら、環境への負荷が増えることの課題もあり、東北エプソンから約8kmの好立地にある酒田港からの輸出体制を構築し、コスト・環境負荷の両面から最適化を行うこととしました。

2015年5月、酒田港からインドネシアへの海上輸送が開始されたことにより、東北エプソンから成田へのトラック輸送と、成田からインドネシアへの航空輸送が大幅に減少し、コストとCO₂排出量を大きく削減することができました。

海上輸送によるCO₂排出量削減効果 (t-CO₂)



※ 東北エプソンからインドネシアの首都ジャカルタまで20フィートコンテナを運ぶ際に発生するCO₂排出量を算出しています(2015年度実績)。船舶輸送の原単位は一般財団法人日本船舶技術研究協会の原単位を使用しています。

連結決算の概要

四半期連結財政状態計算書の要旨

(単位: 億円)

科目	2016年3月期 連結会計年度末 (2016年3月31日現在)	2017年3月期 第2四半期連結会計期間末 (2016年9月30日現在)
資産		
流動資産	6,014	5,637
非流動資産	3,398	3,361
資産合計	9,413	8,998
負債		
流動負債	3,250	2,754
非流動負債	1,456	1,910
負債合計	4,706	4,665
資本		
資本金	532	532
資本剰余金	843	843
自己株式	△204	△308
その他の資本の構成要素	579	293
利益剰余金	2,927	2,948
親会社の所有者に帰属する持分合計	4,678	4,309
非支配持分	28	24
資本合計	4,706	4,333
負債及び資本合計	9,413	8,998

(注) 1. 金額については、記載単位未満を切り捨てています。
2. △はマイナスを示しています。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位: 億円)

科目	2016年3月期 第2四半期連結累計期間 (2015年4月1日から 2015年9月30日まで)	2017年3月期 第2四半期連結累計期間 (2016年4月1日から 2016年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	270	332
投資活動によるキャッシュ・フロー	△369	△371
財務活動によるキャッシュ・フロー	△419	△156
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響	△28	△97
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△547	△293
現金及び現金同等物の期首残高	2,453	2,304
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,905	2,011

(注) 1. 金額については、記載単位未満を切り捨てています。
2. △はマイナスを示しています。

四半期連結包括利益計算書の要旨

(単位: 億円)

科目	2016年3月期 第2四半期連結累計期間 (2015年4月1日から 2015年9月30日まで)	2017年3月期 第2四半期連結累計期間 (2016年4月1日から 2016年9月30日まで)
売上収益	5,429	4,875
売上原価	△3,512	△3,197
売上総利益	1,917	1,678
販売費及び一般管理費	△1,515	△1,420
その他の営業収益	47	30
その他の営業費用	△32	△9
営業利益	417	277
金融収益	8	7
金融費用	△25	△14
持分法による投資利益	0	0
税引前四半期利益	401	270
法人所得税費用	△139	△84
継続事業からの四半期利益	261	186
非継続事業からの四半期損失	△0	△0
四半期利益	261	186
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目合計	△37	△57
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	△61	△288
税引後その他の包括利益合計	△98	△345
四半期包括利益合計	163	△159
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	260	184
非支配持分	1	1
四半期利益	261	186
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	162	△158
非支配持分	0	△1
四半期包括利益合計	163	△159
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益 (円)	72.75	52.09
継続事業に関する1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益 (円)	72.84	52.11
非継続事業に関する1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期損失 (円)	△0.09	△0.02

(注) 1. 金額については、記載単位未満を切り捨てています。
2. △はマイナスを示しています。

会社概要

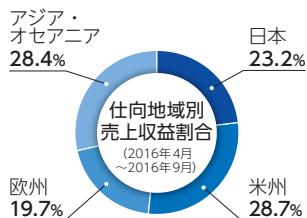
商号	セイコーエプソン株式会社 (SEIKO EPSON CORPORATION)
創立	1942年5月18日
本社	〒392-8502 長野県諏訪市大和三丁目3番5号 TEL: 0266-52-3131 (代表)
本店	〒160-8801 東京都新宿区新宿四丁目1番6号JR新宿ミライナタワー TEL: 03-5368-0700 (代表)
資本金	532億4百万円
従業員数	連結: 73,340 人 単体: 12,333 人



グループ会社 91社 (当社含む国内19社、海外72社)

国内関係会社

エプソン販売株式会社
エプソンダイレクト株式会社
オリエント時計株式会社
東北エプソン株式会社
秋田エプソン株式会社
エプソンアトミックス株式会社
他 12社



海外関係会社

Epson America, Inc.
Epson Europe B.V.
Epson (China) Co., Ltd.
Epson Singapore Pte. Ltd.
Epson Engineering (Shenzhen) Ltd.
Singapore Epson Industrial Pte. Ltd.
P.T. Indonesia Epson Industry
Epson Precision (Philippines), Inc. 他 64社

役員

取締役		執行役員	
取締役社長 (代表取締役)	碓井 稔	常務執行役員	羽片 忠明
取締役 専務執行役員 (代表取締役)	井上 茂樹	執行役員	奥村 資紀 渡辺 潤一 小池 清文 北松 康和 島田 英輝 北村 政幸 深石 明宏 村田 すなお 森山 佳行 高畑 俊哉 北原 強 佐伯 直幸 下斗米 信行 山本 和由 安藤 宗徳 五十嵐 人志 Keith Kratzberg 大塚 勇
取締役 常務執行役員	福島 米春		
取締役 常務執行役員	久保田 孝一		
取締役 執行役員	川名 政幸		
取締役 執行役員	瀬木 達明		
取締役	大宮 英明*		
取締役	松永 真理*		
取締役 常勤監査等委員	濱 典幸		
取締役 監査等委員	奈良 道博*		
取締役 監査等委員	椿 慎美*		
取締役 監査等委員	白井 芳夫*		
		監査等特命役員	
		監査等特命役員	重本 太郎

* 社外取締役

株式の状況

発行可能株式総数	1,214,916,736 株
発行済株式総数	399,634,778 株
株主の総数	47,925 人

大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
三光起業株式会社	20,000	5.67
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	14,777	4.19
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	12,330	3.49
セイコーホールディングス株式会社	12,000	3.40
服部 靖夫	11,932	3.38

(注) 1. 当社は自己株式 47,230 千株を所有していますが、上記の大株主の状況から除外しています。
2. 持株数は、千株未満を切り捨てています。
3. 持株比率は、自己株式を控除して計算し、小数点以下第 3 位を切り捨てています。